

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. **＜栃木県 和洋菓子製造業＞**
4月になり客が戻り出したが、第3次緊急事態宣言が出て再度厳しい状況になった。業界としてこのところ、原材料（砂糖、粉、油等）の値上がりが続き、今後の価格の対応に苦慮している。
2. **＜東京都 カレー粉製造業＞**
巣ごもり需要というより生活環境の見直しが大きく影響し、家庭用製品は宅配、テレビショッピング向けの売上が増えている。業務用製品は回復しつつあったが、緊急事態宣言の発出により変化している。
3. **＜三重県 漬物製造業＞**
野菜全般が豊作のため、漬物原料野菜は順調な入荷となっているが、生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足は続いている。
4. **＜島根県 菓子製造業＞**
昨年4月に比べれば観光客も多少多くなり、地元の買い物客も多くなっているが、一昨年4月と比べると、まだ悪い状況にある。インターネット通販、県外生協は好調である。
5. **＜長崎県 味噌醤油製造業＞**
4月の醤油・味噌の出荷量は、前年比微減。醤油の出荷量が緩やかに持ち直している感があるが、新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響から飲食業の落ち込み・休業の増加で、足踏み感がみられる。
6. **＜鹿児島県 鯉節製造業＞**
鯉の原料は3月に比べ安くなり下がったが、新型コロナウイルス感染症の影響で業務用は回復せず、荷動きが鈍い状況が続いている。全体的に利益は減少している。

繊維・同製品製造業

7. **＜山形県 女性服製造業＞**
呉服、服地とも引き続き新型コロナウイルスの影響によるファッション衣料業界の売り上げ減少が響き、組合員においても依然として雇用調整助成金の活用や生産調整を実施している。
8. **＜栃木県 縫製業＞**
昨年と比べ生産量が非常に少なくなっている。その中でも、品種によって2極化の現象がある。政府の医療用防護服等の発注が出ないと苦しい状況が続く。
9. **＜静岡県 織物業＞**
昨年にも増して深刻な状況にあり、アパレル企業向けに生地を供給することが主となる当組合加入企業は小規模零細のため企業体力が弱く、中には資金繰りに苦慮する企業もある。
10. **＜京都府 繊維工業＞**
和装関連、洋装関連ともに、前向きな兆しがなく落ち込みが続いている。再度の給付金が必要だと訴える組合員が多く見られ、経営が逼迫しているところが多い。
11. **＜広島県 繊維工業＞**
見通しは依然として良くない。防護服、マスクは在庫過多が原因なのか、メーカーからの受注数も総じて少なく、生産が止まっている。
12. **＜熊本県 ニット製品製造業＞**
コロナ禍による衣料品の販売不振が継続しているため、受注が少なく厳しい状況である。特に、5月連休明け納品分後の受注がなく、休業もやむを得ない状況である。

木材・木製品製造業

13. **＜岩手県 木材チップ製造業＞**
広葉樹は、好天や出荷制限が緩和されたこと、5月連休前の駆け込み需要により、チップ出荷量が増加した。一方で、針葉樹はバイオマス材との競合もあり回復していない。
14. **＜埼玉県 木材・木製品製造業＞**
新型コロナウイルスの影響で外材の入荷が減っており、今まで取引のなかったハウスメーカーからの問い合わせが若干増えている。地産地消で国産材利用拡大につながって欲しい。
15. **＜富山県 一般製材業＞**
経験したことのない輸入材供給減少に伴う国産材への代替需要の増加や木材不足による価格の高騰により、住宅着工の遅れや建設に対する影響が懸念される。

16. <京 都 府 製材業・木製品製造業>

木材不足が急速に進み価格高騰につながっている。昨年末から輸入木材の入荷が滞り、国内の需要に対して不足感があったが、4月に入り急速に表面化した。

17. <岡 山 県 製材業>

外材の輸入量が減少傾向にあり価格も上昇基調にある。国内合板メーカーは、生産量を通常水準に戻している。製材品も品薄感から値上げ。プレカット工場は、材料不足の為、受注制限をするところもある。

18. <宮 崎 県 製材業>

プレカット受注は依然として好調である。ただ木材業界では、全国的に外材が不足している影響で国産材への切替えが進んでいるため、今後、製品不足が懸念され、生産調整が生じる可能性もある。

紙・紙加工品製造業

19. <北 海 道 加工紙>

前年同月比では回復傾向にあるが、2年前との比較ではかなり厳しい売上高・収益状況となっている。

20. <茨 城 県 段ボール>

売上がほぼ新型コロナウイルス感染拡大前の数字まで戻って来た組合員と、まだ戻らない組合員と半々といったところである。青果物用の段ボール、5G関連や医療関係等は、比較的良好である。

21. <三 重 県 古紙>

4月の仕入量は段ボール:約100±3%、新聞、チラシ:約108±5%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約93±8%となる。巣ごもり消費と持ち帰り・デリバリーにより段ボール古紙は、前年並みの所が多い様である。

22. <鳥 取 県 和紙製造業>

年度初めの需要品として、多少動いている感じではあるが、まだまだコロナ前の50~70%程度の売り上げしかない。

23. <愛 媛 県 機械すき和紙>

トイレットペーパー・ティシュペーパーは、コロナ特需だった昨年との比較で、二桁マイナスの落ち込みが続いている。売価が崩れていないのが、救いである。

24. <高 知 県 機械すき和紙製造業>

全国的にティッシュ・トイレットペーパーの荷動きが悪い状況は続いている。特に、外出する機会が少ない為か、ポケットティッシュの需要が減少している。

印刷

25. <福 島 県 印刷・同関連業印刷>

4月の売上は各社とも前年比を下回り、業績の回復には至っていない。ゴールデンウィーク中や今後のイベントの中止や見送りが続いており、業況の見通しは非常に厳しい状況である。

26. <神 奈 川 県 製本>

昨年と比べ、仕事量が大きく減少している。融資による資金繰りにも限界が見えてきており、会社存続のために各社頭を悩ませている。組合では、今後のあり方や会社存続をテーマに話し合いを行っている。

27. <富 山 県 印刷業>

一部商業印刷やパッケージ等に若干の売上高の増加が見られたが、全体の収益状況の好転までには至っておらず、景況の悪化感は続いている。

28. <山 梨 県 印刷・同関連業>

組合員各社の主要取引先により売上・収益・景況感共に格差が広がっている。観光業や飲食業を取引先とする組合員は売上減少が顕著、菓子製造業等を顧客とする組合員は受注状況に影響が殆どない。

29. <滋 賀 県 印刷・同関連業印刷>

例年よりも受注が少なく厳しい状況は続いている。感染症再拡大でイベント等が中止になったり、折込みチラシ等が少なくなったりしないか、今後の不安は消えない。

30. <徳 島 県 印刷>

年度末が終わると、コロナ禍でイベント関連の印刷物がなくなり、官公庁の入札では激しい受注競争が続き、去年の価格も通用しなくなっている。4月も更に厳しいスタートとなった。

化学・ゴム

31. <群 馬 県 ゴム製品製造業>

前年同月の緊急事態宣言時よりは売上は増加するも、自動車関連は半導体とプラスチックの不足によって設備稼働度は低水準に止まっている。

32. <東 京 都 ゴム製品製造業>

昨年に続き良くない景況が続いている。自動車関連は半導体不足の影響を受け、減産の計画が続いている。昨年と同様に国による融資がなければ資金繰りの限界が近づいている。

33. <愛知県 高圧ガス >
新型コロナウイルス感染拡大が止まらず、輸送機器関連以外は厳しい状況が続いている。新年度行事は今年も開催が困難になりつつある。景気の先行きが見えない状況が続くそうである。
34. <奈良県 プラスチック >
原油価格の高騰が続く中、原材料の上昇も引き続き生じている状況にある。一般消費の拡大により、生産活動と売上にも回復の兆しが現れているが、収益状況が好転するまでには至っていない。
35. <島根県 プラスチック製品製造 >
売上については引き続き好調に推移している。成型原料の入手について混乱が継続されており、「全く入らない」と言う状況ではないが、予断を許さない状況ではある。
36. <広島県 プラスチック製品製造 >
自動車関連は、売上は横這いであるが、世界的な半導体不足、コロナ禍等、不安定要素が多く、減少が予測される。日用品関連は、コロナ特需対応品が繁忙状態で、医療関係は、横ばい状態である。

窯業・土石製品製造業

37. <北海道 窯業・土石製品製造業 >
今年度に入ってもマーケットは好転せず、前年と同様の厳しい状況が続いている。今後の懸念材料として、資材の高騰、運送費の値上げが予想され、各企業、収益面で厳しくなってくると考えられる。
38. <山形県 コンクリート製品製造 >
前月同様、新型コロナの影響下、河川関連製品だけが特需傾向にあり、一般製品需要は減少傾向である。3月の補正発注工事（繰越し）の内、殆どが昨年7月豪雨災害関連であり、一般工事は殆どない状況。
39. <岐阜県 碎石生産 >
4月の生産量及び出荷量は、前月比でそれぞれ103.5%、103.3%と増加した。また、前年同月比でも生産量及び出荷量は、それぞれ107.3%、107.1%の増加となった。
40. <山口県 セメント・同製品製造業 >
出荷量は、前月比121%、前年同月比103%と増加した。現時点のセメント・骨材等の資材調達では、特に問題は生じていない。生コン販売価格は安定している。
41. <宮崎県 窯業・土石製品製造業 >
4月の出荷実績は昨年対比28%と非常に悪い。上期、特に4月は新規物件が少なく繰越物件に左右されることが多い。昨年度の1/3程度の繰越しで始まる今年度上期は、非常に厳しい数字が予想される。
42. <沖縄県 生コンクリート製造業 >
4月の出荷実績は、対前年比で27.8%減となった。公共工事は、対前年比で6%減となり、防衛庁関連工事が減少したものの、学校・企業局関連工事は増加した。民間工事は、対前年比で34.2%減となった。

鉄鋼・金属製造業

43. <東京都 建築金物製造業 >
新設住宅着工件数の減少と共に、金属材料の品薄及び価格高騰に苦慮している。また自動車部品関連は半導体不足の影響で減産傾向にある。
44. <新潟県 鉄骨製造業 >
組合員間で手持ち工事量・稼働率に格差が生じ、二極化がはっきりしてきた。受注価格に関しては、全グレードとも下落傾向。鋼材価格の値上げの情報もあり、利益率の圧迫が心配される。
45. <岐阜県 鋳物 >
工場稼働率が上がり、雇用調整助成金を利用していただ組合員が減少に転じ、景況が好転してきた。全体として、前月に引き続き、仕事は順調に入ってきているが、業種により仕事量に未だばらつきがある。
46. <三重県 鍍金 >
自動車部品を扱う会社が二極化している。機械部品、建築金物、半導体関連は増加しており、夏迄はこの状況が続くと思われる。将来的にはEV化により部品等の減少が見込まれ、先行不安といった声もある。
47. <大阪府 鍛造業 >
ここ4ヶ月の生産量は約9%前年を上回り、自動車、産業機械・土木建設機械用が10%増、輸送機械用等は前年並みで、半導体不足による自動車関連等への影響など先行き不透明感は続いている。
48. <沖縄県 鉄鋼業 >
これまで遅れていた大型物件・施設・倉庫・学校・団地などが動き出したが、戸建案件については減少が続いている。原料仕入れ価格の高騰が続いており、今後の収支に影響を受けそうだ。

一般機器製造業

49. <秋田県 金属加工 >
業況は地区内総じてボトムアップ傾向である。一部の企業においては先行きが見えてきている事業先もある。しかし、単価や納期など取引条件は厳しいものが依然として多い。

50. < 茨城県 生産用機械 >
組合員7社の売上状況は、前年同月と比べ全社増加し、全体増減率は前年同月比156.8%であった。今年は通常通りの稼働となったことに加え、主要得意先の海外向け需要の回復が要因である。
51. < 奈良県 機械 >
材料費の高騰に加え、メーカーがそれに見合う対応が出来ていないため資金繰りも悪化傾向にある。建設機械・半導体関連が受注増となっているが、まだまだ厳しい状況が続くものと思われる。
52. < 広島県 一般機械器具 >
4月の売上は、期末対応の反動やコロナ禍の影響で国内外の設備投資に対する意欲の低下により前月比で55%減少、前年同月比は25%減少となった。
53. < 山口県 一般産業用機械・装置 >
外国人の入国が出来なくなり、人手不足から残業が増加するとともに事業継続に支障が出てきている。特定技能への切替えによる都市部の企業への転籍等により、人員の確保に苦慮している。
54. < 大分県 カメラ製造 >
カメラ部門・自動車部門とも概ねコロナ前の生産状況に回復した。但し、外国人技能実習生の入国予定が大幅に遅れており、5月以降は要員不足で工場逼迫となる見通しである。

電気機器製造業

55. < 山梨県 電気機械器具製造業 >
医療機器や半導体関係の受注が増えたため在庫が減少している。但し、仕事量は新型コロナウイルス感染症拡大前には及ばず、受注競争も激しいため、4月の売上も前年同月比▲10%程度となっている。
56. < 長野県 電子機械器具製造業 >
新型コロナウイルス発生前の年度と比べて、売上の8割位までは回復している状況である。また、半導体の供給については若干であるが回復してきている。
57. < 愛知県 電気機器 >
新型コロナウイルス第4波の真っ只中ではあるが、売上高は回復傾向にある。3、4月は新型コロナウイルス以前の水準にほぼ戻った。但し、今後の不透明感は否めない。
58. < 京都府 電機機械器具製造業 >
コロナ禍のなか売上高の減少は広汎に亘っていたが、半導体等一部業態に好転の兆しが認められる。既存の業態においては厳しい状況が継続しており、業態間格差の広がりが危惧される。
59. < 兵庫県 電気機器製造業 >
4月の国内自動車販売は、大幅な落ち込みだった昨年の反動で、前年比29.4%増と7ヶ月連続プラスであった。但し、一昨年同期比では7.6%減と、まだ回復途上である。半導体不足による減産影響が懸念される。
60. < 福岡県 電気機械器具製造業 >
コロナによる組合員の業況は、影響が出ている企業も見受けられる。雇用調整助成金の申請を行う組合員もいる。自動車関連では、半導体不足により休業を余儀なくされている組合員も見られる。

輸送用機器製造業

61. < 群馬県 自動車・同附属品製造業 >
自動車は半導体と樹脂の不足、アメリカ港湾の混雑の影響を受け、大幅な減産となった影響で売上減少、景況悪化となった。5、6月には半導体工場火災の影響もあると予測され、動向を懸念している。
62. < 岐阜県 輸送用機器 >
コロナ等による旅客の大幅減少により航空機需要が急激に低下した影響で、受注数量が大幅に減少し、派遣社員の継続契約が難しい状況にある。売上は対前年度で27%のマイナスになった。
63. < 静岡県 輸送用機械器具製造業 >
中国が環境対応を理由に鉄スクラップを積極的に活用する方向に舵を切った影響で、鉄スクラップの価格上昇が10年ぶりに起きている。スクラップ引取価格も上昇し、企業にはプラス要因となっている。
64. < 兵庫県 輸送用機器製造業 >
コロナウイルス感染拡大により、単車等の需要増があり、好調な販売に支えられている。但し、半導体や樹脂の調達が逼迫しており、生産ダウンが予想され、先行きは不透明な状況である。
65. < 山口県 鉄道車輛・同部品製造業 >
鉄道車両関係の受注は概ね2年先までの生産予定はあるが、世界的なコロナ禍の状況により減少も見込まれる。国内車両関係でも、受注の取り止め・先送り・減産等々コロナ禍の影響が予想される。
66. < 愛媛県 造船 >
新型コロナウイルス感染拡大の影響により、新造船の新規契約は皆無で、既存の受注船の工程延長や人員削減で持ち堪えている状況である。工事量の落ち込みにより、廃業する下請業者も発生している。

その他の製造業

67. < 東京都 スポーツ用品製造業 >
コロナ禍で動きがあるのは、アウトドア用品と抗ウイルス、抗菌製品などであり、アウトドア市場はこれからシーズンが本格化していく中、堅調に推移している。
68. < 神奈川県 工業中心の複合業種 >
4月になり、受注減の企業が目立ち、中旬以降はかなり厳しい状況。従業員の出勤制限や受注が全く入ってこない企業もあり、余力があるうちに廃業する企業も出てきている。
69. < 福井県 眼鏡工業 >
受注は回復の兆しが見られるものの、企業間でバラツキがあり、産地全体では依然として厳しい状況にある。
70. < 奈良県 毛皮革 >
毛皮加工のシーズンが終わったため、サンプル作りに入る時期であるが、緊急事態宣言により都市部の百貨店が営業していないせいか、各メーカーより依頼が来ていない状況である。
71. < 和歌山県 釦製造業 >
アパレル業界はコロナ禍の影響で販売場所が実店舗からネット店舗への移行が急速に進んでおり、購買力の低下、それによる価格破壊が起こっており、業界全体が大変な業績悪化となっている。
72. < 香川県 綿寝具 >
4月の売上は昨年同月と比べて10%ダウンした。同業他社も同様に売上を落としている。コロナ疲れで消費が下がっているようだ。

《非製造業》

卸売業

73. < 埼玉県 卸売業 >
街中には若者を中心に以前と変わらないほど観光客が増えてきたが、飲食店・食品関係卸は依然として厳しい。コロナ感染症の流行が再び悪化の状況にあり、景気の回復は、しばらく望めそうにない。
74. < 千葉県 医薬品卸 >
薬価改定により、薬価がダウンした影響で販売価格も低下した。組合員各社は影響を抑えるために新製品の薬剤の販売強化を行っている。また、今後の新型コロナウイルスの感染状況が気になる。
75. < 石川県 各種商品卸売業 >
コロナ以前に比べると、前の水準には戻っていないようである。全体的には1、2割程度減少というところである。同じ業種でも、会社により好不調の差があることに改めて気づかされた。
76. < 岐阜県 電設資材 >
年度末物件が終わり受注が減っている。特に電線や配線器具、インターホンといった商材の動きが悪い。また、少ない物件に対する価格競争も激しく、異業種の参入も顕著になってきている。
77. < 大阪府 電気機器卸売業 >
4月中旬まで前年同月を上回る荷動きが見られたが、月後半に入り新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり荷動きが鈍化し、売上が減少した。
78. < 兵庫県 建築材料卸売業 >
前月に引き続き、建設資材の輸入が滞っている中、国内でも大手企業による囲い込みで、中小企業では極端な入荷不能が起こっている。

小売業

79. < 千葉県 中古車仕入・販売 >
中古自動車オークションの出品台数は減ったが、成約台数は増加した。バイヤーの動きは活発になっている。
80. < 神奈川県 鮮魚 >
入荷は相変わらず少ない。量販売の業者の売上は良いようだが、小売店は不便さがあるのか、足を運んでもらえない。客足は減る一方である。
81. < 富山県 ガソリンステーション >
HV車やエコカーの普及及び少子化などにより、石油製品の需要が減少し続けている。また、後継者不足や施設の老朽化、アフターコロナ対策など、SSの経営環境は厳しさを増している。
82. < 高知県 中古自動車小売業 >
先月からの流れで普通車、特にコンパクトカー（高年式外車）の割合増が目立つ。業界流通量も安定しているため、在庫車両の確保がスムーズに行えると考えている。
83. < 佐賀県 石油 >
原油上昇がストップし、高止りしている。新型コロナウイルス感染拡大防止でガソリン販売量が伸びない。黄砂により需要が増えたことで洗車は好調だが、そのほかの収益は伸び悩んだ。
84. < 宮崎県 石油販売業 >
仕入価格の上下の変動周期が短く、販売単価への反映が難しい状況である。但し、全体の業況は安定している。

商店街

85. < 宮城県 商店街 >
人出は月末にかけて前月並みから増加傾向に転じた。飲食店の時短営業からの一時閉店が目立つ一方、ランチの座席予約や限定メニューが増加している。廃業や移転を検討する声が入ってきている。
86. < 千葉県 商店街 >
来訪者数は増加しているが、売上額はそこまで増加していない。また、この1年間で、全体店舗数の10%程度の店舗が閉店している状況であり、空き店舗への新たな出店は閉塞している。
87. < 石川県 商店街 >
昨年対比売上98.4%。コロナウイルスの感染の影響で、食料品の他は外出の自粛と消費意欲の低下で売上が大きく影響して大変厳しい状況が続いている。
88. < 岡山県 商店街 >
昨年4月の売上と比較し約24%アップとなったが、一昨年比ではまだまだ売上が戻っていない。巣籠り需要の恩恵で売上を伸ばしている店舗もあるが、商店街を取り巻く環境はまだまだ厳しい。

89. < 高知県 商店街 >
飲食店や週末のライブハウス等で、商店街に人の声が行き交うようになってきた。GWが始まり、観光客が増え宿泊客も多くなった。一方、季節のイベントが悉く中止になっており、先の予定が立てられない。
90. < 大分県 商店街 >
昨年よりは良いが、一昨年（コロナ以前）の数字には程遠く、概ね一昨年の7割程度。GWに期待し備えていた在庫や人員シフト等は変更を余儀なくされている。

サービス業

91. < 北海道 公衆浴場 >
今後もコロナの感染拡大が続く場合、利用者数の減少が懸念されるが、今のところは大きな混乱はない。コロナが収束する迄、営業者・利用者の安全、健康・衛生管理、拡大防止策等を十分に徹底していく。
92. < 神奈川県 温泉旅館・ホテル >
昨年4月は、緊急事態宣言の期間中であつたため、昨年と比較すると好転しているが、一昨年と比較すると4割程度の売上状況で、多くの施設が週末中心の営業を行っている。
93. < 富山県 自動車整備業 >
4月の自動車の新車新規登録・届出台数は、前年同月比で、登録車は119.1%、軽自動車は142.5%、全体で128.2%と、昨年4月の落ち込みが大きかった分プラスの数字となった。
94. < 愛知県 貸おしぼり >
飲食店の時短営業、閉店等によりおしぼり需要が減少し、組合企業の厳しい状況が続いている。おしぼりのみを取り扱っている企業は経営をも揺るがしかねない事態になっている。
95. < 島根県 道の駅 >
公設民営の道の駅は、観光業との関連も強く経営状況が上向きにはならない傾向にあるが、昨年と比較すると来客数及び売上高は増加している。道の駅同士が連携し販路拡大に取り組んでいる。
96. < 愛媛県 屋外広告 >
看板の売上は、4月は前月の受注残があるので、ある程度忙しかったが、5月以降のコロナウイルスの状況で更に悪くなる可能性がある。「感染対策期」が延期されており、今後の状況が正直言ってみえない。

建設業

97. < 青森県 管工事業 >
4月は閑散期となるが、昨年同月よりは仕事量が増加傾向にあると感じる。コロナ禍の直接的影響は少ない業界であるが地域経済が疲弊している状況では、今後影響が出ると予想され、この先危惧している。
98. < 山形県 管工事業 >
企業の設備投資が減少傾向にある。民間工事の減少に伴い、公共工事の入札業者が増え、競争のため価格の見直しを迫られたという声が聞こえて来た。
99. < 長野県 設備工事業 >
感染の拡大傾向により再び停滞ムードと諦め感がある。僅かではあるが景気観も上向きつつある中で今後の見通しが再び不透明となっている。コロナ禍も1年が経過し慣れが生じている。
100. < 静岡県 総合工事業 >
官庁工事の新年度予算のうち、普通建設事業費の投資的経費が落ち込んでいる。今後、業者間の過当競争が進むことが予測される。
101. < 広島県 工事業 >
カーテン、敷物、壁装クロス等の3品目合計について、4月度は前月比61.9%減少、前年同月比49.1%減少となり、ここ5年間の月別売上実績でも最低で、かなり悪い状況での年度スタートとなった。
102. < 佐賀県 鉄構業 >
組立員各社の手持ち工事量は1ヶ月～6ヶ月、工場稼働率が70～100%と前月と変わらない状況だが、低迷が継続している。見積り物件が依然として少なく、先行きの仕事量の低下が予想される。

運輸業

103. < 青森県 一般貨物自動車運送 >
リンゴの生産量が多かった分、輸送量は多く、例年と同様の量となったが、価格が落ち着いていることから輸送量に斑がある。燃料価格が昨年末から20%程度高騰しているのが懸念材料である。
104. < 秋田県 トラック >
4月は、低調に推移した3月のまま横ばい傾向で、収益は、前月、前年同月共に減少となった。燃料価格の値上がりの影響と思われ、5月も値上がり見込みとなっており、収益への影響が懸念される。
105. < 山梨県 道路旅客運送業 >
売上の減少から従業員の収入も低下し、タクシー業界から転職する従業員が出ており、さらに人材確保難に陥る事業者も出ている。

106. < 滋 賀 県 貨物運輸業 >

輸出関連・国内生産ともに低調。昨年同月比で若干の減少傾向にある。低調傾向が長引き、経営が厳しい状況になっている。燃料価格も大幅な値上げが続いており、収益確保も困難である。

107. < 山 口 県 一般貨物自動車運送業 >

荷動きは横ばいといった感じだが、倉庫保管案件がかなり増えてきている。特に薬品関係は保管・輸送・作業請負等の複合的な新規案件も多い。それに伴う人員確保も何とか充足している状況である。

108. < 大 分 県 タクシーチケット >

売上、収益とも前年同月比では約74%プラスではあったものの、一昨年の同月に比しては半減の状態。依然としてコロナ禍の影響が多大である。

その他の非製造業

109. < 宮 城 県 不動産 >

土地については、市内中心部の価格が高止まりしており、また新築マンションは専有面積を下げながら販売価格を調整しているのが目立つ。

110. < 群 馬 県 砂利採取業 >

この数ヶ月間、出荷量が1割強減少している。一方で、生産量は増加していることから、結果として在庫数量が増加している。

111. < 神 奈 川 県 不動産 >

昨年からのリモートワークの普及により、売買・賃貸とも都市部の不動産需要は激減している。この先、都市部の土地神話は崩れ、大変厳しい業界となると思われる。

112. < 兵 庫 県 社会福祉・介護事業 >

緊急事態宣言の発令を受け、各法人において面会中止の措置を開始した。短期入所の利用者もより慎重にならざるを得ない状況にある。

113. < 岡 山 県 信用組合 >

昨年同月より(融資先の)売上高は増加しているものの資金繰りは厳しい状況にある。融資支援だけでなく伴走にて計画策定等の支援も行い、再構築補助金を中心に補助金申請等の支援も行いたい。

114. < 福 岡 県 貸金業等 >

個人消費の落ち込みを受け貸付残高が漸減しており、厳しい経営状況が続いている。